

## 外来植物、近年も毎年 10 種以上が新たに侵入

日本には海外から数多くの外来植物が侵入しています。外来植物の中には、生物多様性や農林水産業に悪影響をもたらすもの（侵略的外来種）があるため、こうした種がさらに侵入することを防止するための対策が進められています。侵略的外来種の侵入数について具体的な削減目標を決めるためには、いつどれだけの種が侵入したのか、また現在は何種が侵入しているかを把握することが必要です。本研究では、日本には毎年何種の外来植物が侵入していたか、江戸末期から現代までの約 150 年間の長期推移を明らかにしました。

### ☆ 技術の概要

1. 日本に侵入した外来植物種のリストを作成し、各種の国内初確認年のデータを複数の外来植物図鑑と標本記録から収集しました。このデータを用いて、開国直前の 1845 年から 2000 年までの累積侵入種数を算出するとともに、1 年間に新たに侵入した外来植物種数の推移を統計モデルにより推定しました。
2. 国際貿易の発展や戦後の飛躍的な経済成長を経験した 1900 年から 2000 年までの 100 年間で、日本における外来植物の累積侵入種数は 64 種から 1,353 種へ劇的に増加しました（左図）。1 年間に新規に侵入した種数は、1900 年まで 5 種以下でしたが、1950 年代後半には 16 種に達しました（右図）。
3. 1961 年以降、1 年間に新規に侵入した種数は微減傾向でしたが、1991 年から 2000 年までの 10 年間の平均値は 13 種と依然高い値に留まり、近年になっても毎年多くの種が新たに侵入していたことがわかりました（右図）。

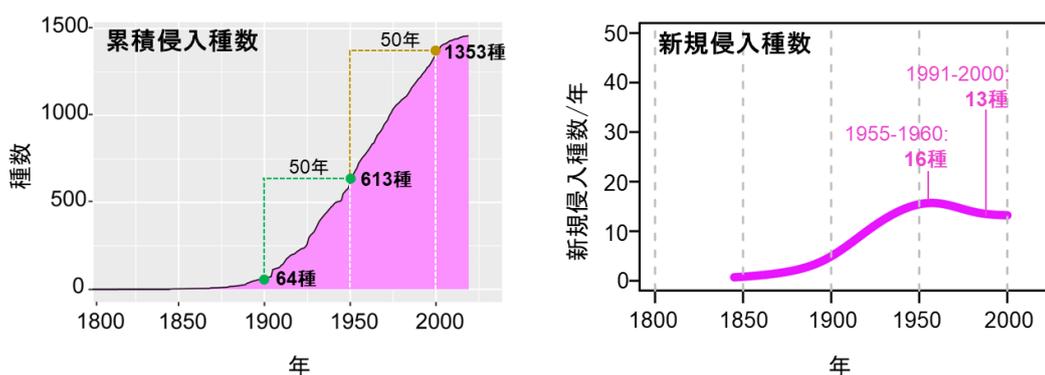


図 外来植物の累積侵入種数（左）と 1 年間に新規に侵入した種数の推移の推定（右）

### ☆ 活用面での留意点

1. 本成果は、侵略的外来種の侵入削減に向けて、過去や現在の侵入動向に基づき、今後の削減目標を決める際の根拠として活用できます。
2. 本研究では、国内初確認年がわかった種のみを対象に解析を行いました。初確認年が不明の種を含めると、実際に日本に侵入した外来植物種数はさらに多くなります。